

第68回 電気科学技術奨励賞を受賞

第68回電気科学技術奨励賞贈呈式が、2020年11月25日、東京都内にて開催され、鹿島 直二さん（技術開発本部電力技術研究所機械グループ）が「風力発電所用新型雷撃検出装置の開発」により受賞しました。（※今回は新型コロナウイルスの影響で受賞者と関係者のみによる）

「電気科学技術奨励賞」（発足当時の名称はオーム技術賞）は、昭和28年に創設され、電気科学技術分野に関する発明、研究、実用化等で優れた業績をあげた方々に贈られるものです。歴史の深さとその領域の広さが特徴で、最近では電気関係者のみならず科学技術各界からも注目を集めている権威ある賞です。

受賞した技術は、風力発電所の風車への落雷を高精度で検出でき、かつ低価格の新型落雷検出装置で、中部大学と共同で開発したものです。具体的には、風車に3個の磁界センサを取り付けることで、落雷により発生する磁界の大きさと方向から、対象風車への落雷を正確に特定するものです。

着想から長期間の地道なフィールド試験、そして、最終的に商品化までこぎつけたことが高く評価されました。



贈呈式会場にて鹿島さん

「テクノフェア2020」を開催 WEB展示会を軸に最新の研究成果を紹介

今年で28回目となる「テクノフェア2020」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ホームページ上でのWEB展示会を基本とし、現地開催「大高展示会」は紹介件数を厳選し、10月29日（木）、30日（金）の2日間、開催しました。

「大高展示会」の会場では、「省エネ・省コスト・ビジネス向けコース」、「電力ネットワーク・通信技術コース」、「原子力安全技術・再エネコース」、「コミュニティーサポートインフラ・先端技術コース」の4つの見学コースを設定し、社員がコースを案内しました。

台風などの非常災害時、倒木や土砂崩れなどで進入困難箇所がある場合に有効活用できる「AI（人工知能）を用いた自律飛行ドローン」、巡視の効率化や不具合発生時の早期対応を可能にする5Gを使った「変電所巡視ロボット」、冷凍食材を最大6分の1の短時間でおいしく

解凍できる自動解凍機「Sassa（サッサ）」、など最先端技術の研究成果を36件紹介しました。

また、会場の見学は事前予約制とし、来場登録者をコースや時間ごとに把握し、来場手続きはQRコードで行いました。人同士の接触機会を極力減らすなど新型コロナ対策を徹底し、353名の方々にご来場いただきました。

一方、「WEB展示会」はホームページ上で10月29日（木）から12月18日（金）まで公開しました。最新の研究成果を動画や音声を用い、67件の研究成果を紹介しました。6,950名の方々に研究成果を閲覧していただきました。

今後も最新の研究成果などを紹介し、より良いフェアとして情報発信して参りますのでみなさまのご来場をお待ちしております。



WEB展示会の画面一部（閲覧項目をクリックする）



大高展示会の様子（5Gを使った変電所巡視ロボットによる効率化）